

「月山の粉雪」 舞い降りた

鶴岡 耕作放棄地活用し小麦栽培



新たなブランドとして立ち上げた「月山の粉雪」
＝鶴岡市

鶴岡市の月山高原畑作団地で小麦の生産、販売の活動が進んでいる。耕作放棄地を活用し、おととしから「ゆきちから」の栽培を開始。食材として幅広い活用を見込み、製粉加工の工程を整えた。新たに「月山の粉雪」というブランド名を決め、商品化した。

地元の月山ろく環境保全会や月山高原農地委員会、月山の粉雪プロジェクト、スマート・テロワール協会の4団体が連携した取り組み。月山の麓に広がる同団地では、これまでアスパラガスのほか、赤カブやタバコ、枝豆を生産していたが、生産者の高齢化などにより耕作放棄地が増え、地域の課題に挙がっていた。

2021年秋にゆきちからの生産に動き出し、昨夏は約40トを初めて収穫した。今年は3法人2個人が前年比1・5倍増の計30トで

ブランド名決まり 商品化

作付けし、約120トの出荷を見込むという。玉谷製麺所（西川町）と新たにタッグを組み、石臼ひきの製法での商品化に前進。消費者向けに1キロ、業者向けに10キロと少量での販売を可能にした上で、「月山」をアピールしたブランド名を決めた。

希望者への商品販売を始めた今月11日、月山ろく環境保全会が同団地で開いたイベントの中に、月山の粉雪を使用した食品の試食会が盛り込まれた。市内の店舗が参加の住民らにパスタやうどん、ベーグル、菓子を振る舞った。土地所有者らでつくる月山ろく環境保全会の鈴木昭夫会長は「（商品化は）地域にとって光明。一生懸命活動し、評判を呼びたい」と話していた。商品などの問い合わせは月山高原農地委員会事務局0235（41）9181。

（相原健佑）